技術の窓　№2210　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　H 29. 6.23

黒毛和種雌牛の育成期の
適正な栄養管理による収益向上

子牛市場では発育がよく、体格・体型のよい牛が高値で取引される傾向にあることから、濃厚飼料を多給して育成された子牛が多く見られます。しかし、雌牛は去勢牛に比べ皮下脂肪が付きやすく、さらに育成期での濃厚飼料多給は肥育期での食い止まりや枝肉の皮下脂肪厚等との関連も指摘されています。

そこで、群馬県畜産試験場では、黒毛和種雌子牛の栄養度による体格の違いが肥育成績に与える効果を検証し、黒毛和種雌牛の高品質牛肉生産技術について検討しましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1．黒毛和種雌子牛（父：安茂勝産子）を用い、公益社団法人全国和牛登録協会栄養度判定基準（1～9段階）に準じて判定し、栄養度５で適度と判定された子牛（標準区）と栄養度６で過肥と判定された子牛（過肥区）に区分し、体重および日増体量等の発育成績の比較を行った結果では差が見られませんでした。

2．栄養度が適正な標準区の子牛の枝肉格付成績の平均値は、肉質等級がよい傾向が見られ、4等級以上の割合も高くなります。

3．栄養度が過肥と判定された過肥区の子牛では、肥育段階でも皮下に脂肪の動員が優先されて皮下脂肪が厚く、歩留基準値も低くなり、筋肉内に脂肪（サシ）はあまり入りません。

4．１頭あたりの販売金額から飼料費を引いた金額は、栄養度が適正な子牛の方が約 84,000 円程度高くなりました。

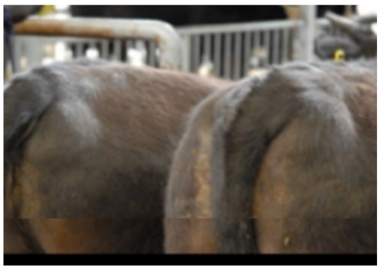

図１　過肥の雌子牛（尾根部に脂肪が蓄積）

図２　標準区：A５ ロース芯72cm^2 BMS ９

図３　過肥区：A2 ロース芯63cm^2 BMS ３

☆ 活用面での留意点

子牛の育成段階での適正な濃厚飼料給与により飼い直しが不要となり、肥育期間が短縮します。詳しくは、群馬県畜産試験場肉牛係　浅田勉(℡ 027 - 288-2222）にお問い合わせください。

（日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー　加茂幹男）